

# 県勢力この二年

## 躍進へ基盤づくり着々

明治五年に岩手県が発足してからちょうど百年となり、意義ある年となった今年、躍進へ着々基盤づくりが行なわれた年ともいえよう。国道四五号線の全線開通、三陸縦貫鉄道の部分開通、新幹線工事の進展など交通網整備の大幅な進展、また、御所ダムの着工、一関遊水池計画の決定など治水対策の前進などいづれもそのあらわれであり、県勢の飛躍に欠くことのできないものである。

しかし、一方では公害の多発、自然破

### 県当初予算一千億円を突破

#### 岩泉線・宮古線部分開通

一月 新春早々栃木県で開催された、冬期国体スケート競技大会で、本県勢が大健闘、総合六位となった。来年一月には同大会が本県で開催されることでもあり、この成績はこのうえない朗報となった。

暖冬異変といわれていたのもつかのま台湾坊主の急襲にあい、漁業、林業などに総額約七十三億円の被害。戦後四番の災害となった。

壊、県外大資本の脅威などが切実なものとなり、また福祉、教育などの一層の充実も切望されることとなった。こうしたことから行なわれたのが、社会福祉・教育・商工業などの長期計画策定であり、自然保護条例・公害防止条例の施行などである。

今年もあわずかである。岩手二世紀へのスタートにあたり、住み良く豊かな岩手の建設のため、県民みんなで決意を新たに新年を迎えたいものである。

二月 県当初予算が一般会計で一千百三十五億円を計上。九月現計ではさらに増加して一千九十三億円となり、一千億円の大台を大幅に突破した。

着々進む三陸縦貫鉄道では、岩泉線(浅内―岩泉)、宮古線(宮古―田老)が相次いで開通。半世紀の夢の実現とあって特に地元では熱狂的歓迎であった。

資源開発か文化財保護かで難行していた安家洞(岩泉町)が国の天然記念物と



国道45号線の開通式

して仮指定されることになり、日本一長いといわれる同鐘乳洞の保護に万全が期されることとなった。

社会福祉の充実は本県の最重点施策の一つとして進められているが、その長期計画である「県社会福祉計画」がまとめられた。この計画は、五十年度を目標年度とした五か年計画で、施設整備に総額

約六十五億円を投じられるなど、社会福祉の大幅な充実ははかろうとするものである。

三月 乳児死亡率は年々低下しているが、四十六年にはゼロ町村に安代町・山形村も加わってついに八町村、また県平均でも大幅に低下した。

養護老人ホーム県立松寿荘が老朽化に

### 一九七二年県勢ビッグテン

- 一、国道四五号線の全面改良舗装と岩泉線・宮古線の部分開通など三陸の交通網整備大幅に進展
- 二、二戸市が誕生し、県北の拠点都市として発展が期待
- 三、県当初予算が一千百三十五億円となり初の千億円大台を突破
- 四、御所ダム着工と一関遊水池建設計画の決定で北上川治水大きく前進
- 五、自然保護条例・公害防止条例の施行と北上川清流化の国の引き継ぎなど、環境保全対策前進
- 六、岩手畜産流通センター基幹施設完成、肉畜流通合理化体制ととのう
- 七、岩手県発足以来百年を迎え「新しい岩手をつくる県民運動」スタート
- 八、社会福祉計画の策定、新松寿荘の完成など社会福祉対策進む
- 九、第三次教育基本計画が策定され、また、近代的なアイススケート場も完成
- 十、商工業振興計画・第三次観光開発計画が策定され、また、宮古市に国民休暇村設置も決定

より改築されることになり、栗石町に移転建設された。旧施設と較べると敷地が四倍、建物が二倍の面積で、設備も完備されており、東北一デラックスとのことである。

### 二戸市誕生

#### 御所ダム着工される

四月 福岡町と金田一村が合併、二戸市が発足し、一日発足した。本県の市誕生は江刺市以来の十三年ぶりで十三番目県北の拠点都市として発展が期待されることとなった。

通学時の児童などを交通事故から守るため学校を中心にスクールゾーンを設置事故防止に大きな効果をあげている。

五大ダムとして建設が計画されていた御所ダムが着工され、五十二年完成をめざして工事が急がれている。

北上川治水対策の一環として計画されていた一関遊水池の建設がきまった。遊水池面積は千四百五十ヘクタール、工事費四百五十億円、六十年完成が目標である。

五月 北上川の清流化は本県の宿願であるが、松尾鉱業(株)の営業停止に伴う酸性鉱毒水の中和処理は暫定的に県が実施してきたが、五月以降国が行なうことになり、抜本的解決も検討されることになった。

第二十五回全国植樹祭は、昭和四十八年、岩手郡松尾村で開催されるが、その

県実行委員会が正式発足し、また九月には県に全国植樹祭局が設置されて、準備に万全が期されることとなった。

交通網の整備などで大量化、多様化する観光客に対処し、調和のとれた観光開発を行なうため「第三次観光開発計画」が策定された。この計画は五十二年度までの五か年計画で、観光客を現在の二・三倍に見込み、総額約五百十六億円を投じようとするもの。優秀な観光資源を持ち、観光県をめざす本県にとって、計画の達成が期待されることである。

六月 県内歩道を車イスでも歩けるようにと、八百七十カ所が身体障害者向けに改良整備されることになった。豊かな自然を永久に保護しよう、昨年十二月自然保護宣言が行なわれ、また県自然保護条例が制定されていたが、その条例が全面施行された。同条例は、保護地区を度合に応じて五段階に分け、必要に応じてその地区に指定して、自然を保護し、また積極的に緑地を造成していくこととするもの。八月には、自然保護審議会専門委員によって二十六の候補地が調査され、その結果現在二十カ所しかって検討されており、年内には地区指定となる見通しである。

「新しい岩手をつくる 県民運動」スタート

七月 キャンプを通じ、青少年の健全育成をはかろうと、衣川村に青少年旅行

村が設置され、開村以来県外の青少年等も来村して、連日にぎわいをみせていた。県公害防止条例が昨年改正されていたが、このほど全面施行となった。この条例は、国の公害法などに規制されていない公害を規制するため制定されたもの。本県の実情にあわせ細密な規制も行なうなど、恵まれた環境の保全に万全が期されることとなった。

盛岡市の中津川上流に建設される県営綱取ダム計画がきまった。このダムは、洪水調整・上水道用と多目的ダムで、約四十億円をかけ、五十三年に完成する予定である。

八月 上閉伊郡大槌町から北上山系、奥羽山脈を横断して秋田市に通じる、北東北横断道の構想が打ちだされ、実現に明るい見通しとなった。



改築なった県立松寿荘

十月 三陸の大動脈国道四五号線の内改築舗装が完成、盛大に開通式が行われた。この国道は、さる三十八年の着工以来十年間の難工事で、総工費三百五十三億円を投入して行なわれたもの。従来の曲りくねった「酷道」は面目一新、トンネルをくぐり橋を渡って見事なハイウェイと生まれ変わった。県内区間二百四十五キロで旧道より約八十キロ短縮され、産業に観光に大きな役割をはたすことであろう。

### 国道四十五号線全線開通

#### 県政百年記念式典開催

国体県民運動を、今後の県勢発展への推進力とするため、新しい県民運動として進めるべきであるとの声が強くなり、二十三年の協力のもとに「新しい岩手をつくる県民運動」のスタートとなった。明るく豊かな岩手の建設に、この運動の一層の盛り上がりが期待される。

九月 岩手山麓について本県二番目の国民休暇村が宮古市に設置がきまった。この休暇村は、総合的レクリエーション基地として、国立・国定公園の中にキャ

ンプ場などを設置するもの。四十九年のオープンがまたれるところとなった。「あすを築く県民の育成と個性豊かな文化の創造をめざす教育」を主目標とした「第三次教育基本計画」が策定された。この計画は、六十年を目標年度とし、教育・文化・スポーツなどの推進方を示すもの。施設整備などに総額約千三百六十億円の投資が計画されるなど、教育の一層の充実が期待されることとなった。

た先人の偉業をしのぶとともに新たな飛躍を期するため県政百年記念式典が開催された。式典は各界の代表など約六百人に参加して行なわれ、千田知事が新世紀への新たな決意を述べたあと、県政功労者四十一人五団体が表彰されたほか、記念上演などが催された。

多様化する行政需要に効率的に対応するため、県行政機構を整備する案がまとめられた。この案は、現行の企画・厚生・経済・農務・農地林務の各部を再編し、知事直属の企画開発室を設けるほか、福祉部・環境保健部・商工労働部・林業水産部・農政部を設けようとするもの。この部の再編で課も大幅に整備される。

岩手畜産流通センター（紫波町）の建設が工費七億五千万円で進められていたがこのほど完成、畜産王国をめざす本県の肉畜流通合理化体制が整った。同センターはと畜からカット処理・冷蔵までを行なうもので、処理能力は一日肉牛百頭、肉豚五百頭、全国一の規模である。

スケート国体の開催とあわせ建設が急がれていた県営スケート場は、すでに完成していたホッケーリンクとあわせ、このほどスピードリンクが完成した。このスケート場は、工費約四億円で、いわゆるパイピング式の最新設備を誇るリンク。使用期間も十一月から三月までの五カ月間で、天然リンクとは比べものにならない。本県スケートのレベルアップが大いに期待されることとなった。

激動する国際経済、それに高速交通時代の到来と本県商工業界には大きな試験が予想されるが、このような情勢に対応するため「商工業振興計画」が策定された。この計画は、県・市町村・商工業界

が一体となって策定したもので、五十五年を目標年次とする長期計画。この九年度で飛躍的な増大が予想される需要に対応するため、総額約一兆円を投資して本県商工業水準を引き上げようとするもの。この計画達成には、関係団体等の一致協力ももちろんであるが、なんととても業界の意欲が原動力、積極的などりくみが切望されることとなった。

県下最大の防災ダム、荒沢防災一号ダム（安代町）が完成した。このダムは、さる三十九年の本体工事以来約八年間で総額約十五億二千万円を投じて建設されたものである。

十一月 明治五年岩手県が発足してから今年で百年となり、今日の岩手を築いたものである。

学させ養成することになっていきます。

## 医療の光りを全域に

### 医師確保対策事業



臨床実習に熱を入れる医学生 優秀な医師の養成が急がれる

医師不足の問題は、岩手県だけでなく、全国的に共通の悩みとなっています。本県の医師、歯科医師の現況は、昭和四十六年末で、医師千六百二十五人（人口十万人対百十九・三人）、歯科医師三百三十九人（人口十万人対二十四・九人）、全国平均に比べて、医師は同程度ですが、歯科医師は大巾に下まわっています。加えて、疾病構造の変化、医療内容の細分化等による医療需

要の増加もあります。これに對処して、県、市町村、関係機関では、種々の対策をたてて推進中ですが容易なことではありません。県では、地域における医師の確保などについて、調査協議するため、医師確保対策協議会を設けており、現在、次のような事業を行なっています。

**医師・歯科医師養成事業**

▽県内に定住する医師・歯科医師の確保を図るため、岩手医科大学と連携して特別奨学生制度を設け、医師については昭和四十四年度から、歯科医師については本年度から医師の養成を行なっています。

①特別奨学生の応募資格：県内に住む県出身者で、市町村長と出身高校長から推せんを受けた高卒または見込みの人

②特別奨学生の特典：岩手医科大学医学部、歯学部に入学を許可されて特別奨学生となった場合は、入学時に納入する入学金、施設整備費の全額卒業までの六カ年間に要する授業料等の三分の二の額が貸与されること。また、免許取得後、県が指定する医療機関に六カ年間勤務すれば、特別奨学金の返還の義務が免除されること。

▽医師確保は、各県が個別で解決にあたるには、あまりに大きな問題です。そこで、特にへき地医療に従事する医師の養成をはかるため、各県の負担のもとに自治医科大学を設立しましたことしから開校した同大学には、本県からも三人が入学、今後は、毎年各県から二～三人入

**医師の配置と派遣**

この事業は、地域における医療の確保と保健衛生の向上を図る目的で昭和四十三年から実施しているもの。総体的に医師不足の地域で、しかも市町村の努力にもかかわらず、医師の誘引が困難で医療の条件が著しく悪い地域が対象です。

そして、県が岩手医科大学の協力を得て毎年五人の医師を県が指定する地域の中心的病院に配置します。医師の配置を受けた病院では、へき地診療所に医師を派遣して出張診療を行ない、住民の医療確保に努めています。

**地域医療の確保対策**

▽医療施設整備に対する融資

本県における医師の数が全国平均と大差ないとはいえ、その大部分は盛岡市などの都市に偏在しています。人口十万人に対して、医師四十人以下の町村は二十七もあって、こうした町村こそ住民の医療の確保が大きな課題になっています。

そこで、このような地域に医療施設を開設し、住民の医療の確保および保健衛生の向上を図ってもらうために、その地域で開設する場合は、その資金の一部を岩手県医師信用組合を通じて貸し付けしています。

▽地域医療確保に対する助成

市町村内に一人でも多くの医師が医療施設を開設するためには、医師自身の開設計画はもとより、市町村が積極的に医師の誘致を図ることが大切です。地域医療に対する助成は、こうした市町村の課題を具体的に示してその推進を図るため、財政面の助成をしようとするもので、本年度から新たに設けられた制度です。

助成の対象となるのは、人口十万人に対し医師が四十人以下の町村の区域内において、開業した医師に町村が助成した場合で、県の補助額の限度額は一人について五十万円です。

この制度は、さきの医療施設整備に対する融資と一体的なものですから、事業の推進にあたっては、両面を活用する方向で検討し、一人でも多くの医師を確保する体制を整えたいものです。